

福知山公立大学 2024 年度入学式 式辞

本日、福知山公立大学に入学されました地域経営学部地域経営学科 89 名、医療福祉経営学科 25 名、情報学部 108 名、それに大学院地域情報学研究科 15 名、合わせて 237 名のみなさん、ご入学おめでとうございます。教職員を代表して、皆さまに歓迎の意を表します。また、これまでみなさんを育み慈しんでこられたご家族・ご親族のみなさまにも心よりお慶びを申し上げます。本日は、福知山市長大橋一夫様に来賓としておいいただき深く感謝申し上げます。

また、本年は大学院地域情報学研究科に入学者を迎えることとなった記念すべき入学式となりました。本年の修士課程入学者はすべて本学の卒業生ですが、その 15 名のみなさんにもあらためて歓迎の意を表したいと思います。

さて、高校を卒業し本学の地域経営学部と情報学部に入學されたばかりのみなさんは、4 年間の学部の後にさらに大学院に進学される先輩がいることに驚いたり、自分には関係のなさそうなよそ事だと感じる方もいるかもしれません。入学試験のための努力を重ねて本学に入学し、これから始まる 4 年間の学生生活の間には勉学に励もうとする気持ちはあっても、4 年後の本学からの卒業で自分の学びの時は終了することになると考えておられるかもしれません。しかし、実はそうではないのだということ分かっていたくために、少し奇妙に聞こえるかもしれませんが、「学ぶ」ということを「食べる」ことになぞらえてみたいと思います。

私たちは生きている間、いつも何らかの食べ物を身体の外から取り入れ、消化しなければなりません。タンパク質、炭水化物、脂肪などの栄養を摂取しなければ、身体そのものを形作り成長させ維持することもできませんし、身体を動かして何か行動をすることもできません。これは私たちの身体のことですが、私たちのこころ・精神も似ています。学ぶということは、こころ・精神が自分のなかに何かを取り入れること、摂取することです。「学ぶ」という言葉は何か高度で高尚な内容を思い浮かべがちなので、もっと平板に「知る」という言葉を使ってみましょう。例えばリングについて、私たちの身体はリングをそのまま物理的に自分のなかに取り込んで栄養にしますが、そのリングをこころ・精神が「知る」ということは、リングをこころ・精神のなかに取り込むことです。「リングが皿の中に入れてあること」や「そのリングが赤いこと」の「知識」を、こころ・精神が自分の中に形成します。リングについての情報を獲得すると言ってもよいでしょうが、「情報」に当たる英語の information という単語のもともとの意味は、「形を与えること、形成すること」です。つまり、こころ・精神がリングによって型どられることが「リングを知る」ことなのです。

このように考えると、食べ物を食べることも知識を獲得することつまり学ぶことも、ともに、私たち人間が自分の周りの環境のなかで生き延びるための環境との交流であるという意味で同じです。このことはどんな動物にも共通です。たとえば、ネズミは餌を食べるし、猫を見て敵だと知って逃げて、生き延びています。ただ、人間以外の動物が生きている環境はほぼ自然の世界という環境だけであるのに対して、人間が生きている環境には自然的世界だけではなく、人間が自分で作り出した社会的制度という環境や文化的・歴史的環境、それにさまざまな技術が実現した環境もあります。そのような複雑で重層的な環境のなかで私たちが生き延びるために、その環境世界についての知識を自分のなかに取り込むこと、つまり学ぶことが避けられないのです。

それでは大学での学びがみなさんの学びの時の終わりではない、ということはどういうように考えられるでしょうか。高校までのころ・精神の栄養摂取としての学びは、言うならどのような環境であっても対応できる基礎体力の獲得でしたが、その体力を具体的な環境の中で生き延びるためにはまだ実際に使用してはいなかったのです。私たちが食べ物を摂取するのは、身体それ自体を作り維持するためだけではなく、その身体を動かして活動するためのエネルギーを生み出すためでもありました。それと同じように、大学入学以降の学びというものは、みなさんが生きる具体的な環境をより良いものに変える活動をして生き延びるためのエネルギーを獲得することなのだと思います。ところが、先ほど述べたように、人間が生きる環境は複雑多様で多層的ですから、その中で生き延びるために食べなければならない知識も複雑多様で多層的です。しかも、その環境は常に変化しますから、その変化に応じて摂取が必要となる知識も変化します。身体についても、身体の状態に応じて、また身体を取り巻く環境の違いや変化に応じて適切な食べ物を摂取し続けなければ生き残れないのと同じように、ころ・精神が生き続けるにも、環境の違いやその変化に応じて適切な学びを続けなければならないのです。このことが大学 4 年間でみなさんの学びの時の終わりになるわけではないということの理由なのです。

学問というものは、突き詰めるならば、人間が生き残ってよりよい生き方をするために必要な知識を長い時間をかけて整理したものです。整理された結果としての学問だけを見ていると、それが自分の生活や生き方と結びついていないように思えるかもしれませんが、本当はそうではないのです。そして、福知山公立大学が「地域協働型教育」を進めているのは、そのことを知ってほしいからです。具体的には、福知山市や周辺の北近畿地域に見出される具体的な状況や社会的課題にまず触れることから、本学での学修が始まることとなります。それとともに、「地域協働型教育」という名称は、その地域で課題解決のために活動しておられるさまざまな人々と協働しながら学修をすることで、本学での学びが知識を受動的に獲得することではなく課題解決のために能動的に働くために学ぶのだということを示しています。つまり、学びというものが人間が自分が

生きている環境を食べ、それによって生み出されたエネルギーを使って環境を良くするために活動するためにあるということを、福知山市や北近畿地域という環境のなかで自覚してほしいと願っているのです。そして、本学でのこのような学びは、卒業された後にみなさんが生きることになるそれぞれの地域という環境のなかにおいても、そこで学び続け地域に貢献するためのちからになると考えているのです。

最後に、これから本学での学びを始められるみなさんに期待したいことを申し上げたいと思います。本学は2つの学部だけからなる小さな大学です。そこで学べる学問分野はとても限られたものです。本学はみなさんの食べたいものが何でも手に入るデパ地下ではありません。むしろ、一応カリキュラムというメニューも掲げられてはいますが、持ち込み可能なフードコートのようなところですよ。大学は本質的には先生が教えたいことを教える場所ではなく、みなさんが学びたいことを主体的に学ぶ場所です。と同時に、ここにはみなさんより少し長く学び続けてきた教員がいて、みなさんの学びのサポートをしてくれます。ですからみなさんに期待したいこととは、まず何を学びたいのかを自ら主体的に探してほしいということ、そして、その学びたいことを教員にぶつけてサポートを受けることに躊躇しないということです。本学はみなさんの主体的な学びを全力で応援します。

本日はご入学、まことにおめでとうございました。

2024年4月3日

福知山公立大学長 川添 信介